

記述的カタログ：中世写本で見出された 160枚の運命の細密画

轟 義 昭

はじめに

毎年12月末に恩師である黒瀬保先生を囲んで我々弟子たちは忘年会を行う。その度に、先生は私に対して自らが1977年に出された『中世ヨーロッパ写本における運命の女神図像集』の『補遺』を刊行するようにと再三要請される。というのも、先生は私が運命の細密画の複製を数多く収集していることをご存知だからである。私は師の要請を真剣に受け止め、目下、その『補遺』を20数年ぶりに世に出そうと計画しているところである。本稿はその一環である。

ここに挙げた160枚からなるカタログには、黒瀬氏の『図像集』に掲載された190枚の図版のものは含まれていない。数年を費やして、私が35mmカラーライドもしくは白黒写真の形態において獲得した細密画の複製に基づいている。収集先は世界12ヶ国にわたり、次のような53箇所の図書館並びに美術館である。

- アメリカ：ボルティモアのウォルターズ・アート・ギャラリー；マサチューセッツ州ケンブリッジのハーバードカレッジ・ホートン図書館；ロサンジェルスのパール・ゲティ美術館；コネティカット州ニューヘーヴンのイエール大学図書館；ニューヨークの市立図書館；ニューヨークのピアポイント・モーガン図書館；フィラデルフィアのローゼンバッハ博物館・図書館；プリンストンの大学図書館；カリフォルニア州サンマリノのハンティントン図書館；ワシントンの国会図書館
- イギリス：ケンブリッジのニューアムカレッジ図書館；ケンブリッジのトリニティ・ホール；エディンバラの王立図書館；グラスゴウのハンター博物館；ロンドンの大英図書館；ロンドンのウエストミンスター寺院；ロンドンのウォレスコレクション；オックスフォードのボドリー図書館
- イタリア：チェゼーナのマラテスティアーナ図書館、フィレンツェのメディチ家ラウレンツィアーナ図書館；フィレンツェの国立図書館；ヴェネツィアのマルチアーナ国立図書館
- ヴァティカン市国：ヴァティカン法王図書館
- オーストリア：ウィーンのオーストリア国立図書館
- オランダ：ハーグの国立図書館；ハーグのMeermanno - Westreenianum美術館；ユトレヒトの国立大学図書館
- スイス：ジュネーヴの市立および大学図書館
- スペイン：バレンシアの大学図書館
- ドイツ：ベルリンの国立図書館；エルランゲンの大学図書館；イエナの大学図書館；ミュンヘンのバイエルン州立図書館；シュトゥットガルトのヴェルテンブルグ州立図書館；ヴォルフエンビュッテルのアウグスト公爵図書館
- フランス：アミアンの市立図書館；ベルグの市立図書館；カンブレの市立図書館；ブロー＝シュール＝メールの市立図書館；シャンティイのコンデ美術館；ドゥエの市立図書館；グルノーブルの市立図書館；マコンの市立図書館；モンペリエの大学間図書館；パリのアルスナル図書館；パリのフランス学士院図書館；パリのサント＝ジュヌヴィエーヴ図書館；パリのマザリーヌ図書館；パリの国立図書館；ルーアンの市立図書館
- ベルギー：ブリュッセルの王立図書館、ゲントの大学図書館
- ポルトガル：リスボンのグルベンキアン美術館

図像解説

Amiens, Bibliothèque Municipale

Ms. 216, folio 185

アイグスティヌス『神の国』写本の第5巻：王冠を被り、縁が赤色の翼を持ち、青地の衣装を纏い、顎髭のある王（運命の女神？）が車輪の後方で regnabo, regnavi, sum sine regno の位置にしがみついた人像を配した車輪を両手で回している。

Baltimore (Maryland), Walters Art Gallery

Ms. W. 143, folio 34

『薔薇物語』写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手で車輻を握って車輪を回転させている。車輪は4人の人像を配した典型的なもの（頂点に座る王と縁にしがみついた3人）である。

Ms. W. 310, folio 20^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：中央に哲学、左側に右手を祈る姿勢に上げたボエティウス、右上空に運命の女神。豪華な衣装を纏った哲学が顔をボエティウスの方に向け、左の人差し指を上空にいる運命の女神に向けて、運命の実体を説いている。上空の運命の女神は上半身像だけで、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみついた3人）とそれぞれの帯状飾り（banderole）を配した車輪のクランクを右手で回している。

Ms. W. 318, folio 1

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：中央にある玉座に理性が腰掛け、左側に美德、右側に小さな車輪を左手に持つ運命の女神がいる構図。運命の女神が話す身ぶりに右手を持ち上げ、美德が左手で祈る姿勢を取り、右

の人差し指を相手に向けて論争している。

Bergues, Bibliothèque Municipale

Ms. 63, folio 77

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本：川に囲まれた場所（島）に二つの城がある。左側の城は傾いてみすぼらしい。そのなかに布で目隠しされた運命の女神が両手を合わせ、祈る姿勢で椅子に座っている。右側の城は豪華で、女神が大きな車輪の車輻を握り、その後ろに立っている。車輪の両側が壁に接しているため、回転するようには見えない。双方の城の前を流れる川から水を汲んで飲んでいる2組がいる。

Berlin, Staatsbibliothek, Preussischer Kulturbesitz

Ms. lat. fol. 25, folio 107

ボエティウス『哲学の慰め』写本：右肘を突いてベッドに横たわるボエティウスを哲学と2人のミューズが慰めている。その上方には（布で目隠しされ、右手に王杖を持ち、半分が白色で半分が黒色の顔をした）運命の女神が車輪を携えて浮かんでいる。その車輪には頂上に座る王（regno）と縁にしがみついた2人（regnabo, regnavi）が見られる。

Boulogne-Sur-Mer, Bibliothèque Municipale

Ms. 55, folio 205

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：Laborde (1909)¹の解説によると、「イサク（ヤコブの父）と運命の女神」となっている。右手で祈るような姿勢を取ってベッドに横たわる人物の傍らに食事を差し出す貴婦人と2匹の犬を連れた若者がいる。（布で目隠しされた）運命の女神は大きな車輪の後方に立った姿勢で空中

に見られ、両手を車輻において、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を回している。

Brussels, Bibliothèque Royale

Ms. II.1076, folio 82

Hugo de Folieto, *De rota verae et falsae religionis* 写本：運命の車輪の典型的な構図に従って修道会に適用されたもの。regnoに大修道院長 (abbot), regnaboに修道院次長 (prior), regnaviに副修道院長 (subprior), sum sine regnoにdisciple (門弟) がいる。車輪の縁には6つの美德、即ち、頂上のCaritas (愛情) から時計回りにHumilitas (謙遜) → Sobrietas (中庸) → Paupertas (貧乏) → Puritas (純潔) → Voluntas (自由意志) の銘が記されている。この銘を考慮すると、修道院次長は野望を抱いて昇ろうとし、副修道院長は謙遜から身を引こうとしていることになる。最下部の門弟は中庸の精神から書物を朗読している。ここには運命の女神は見られない。

Ms. 9078, folio 221^o

ウェアリウス・マクスィムス写本：花咲く草原模様の地面において運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻において、身分の異なる4人の人像（頂点には王）が配された車輪を回している。車輪の回転は左回り。

Ms. 9294—9295, folio 221

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：上下二つに仕切られている。上段において左側では運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を車輻に置いて、4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみつく2人、最下部の地面に横たわる者）を配した車輪を回している。中央には双生児を連れたポシドニウス、右側では占星家のニギデ

ィウスが回転する陶工の轆轤を用いて双生児の問題（偶然性）を証明している。下段においては主なる神と4人の乙女を連れた王妃が見られる。

Ms. 9392, folio 77^o

クリスティーヌ・ド・ピザン『オテアの書簡』写本：大きな岩のある草原において運命の女神が地面に固定された車輪のクランクを両手で回している。車輪には4人の人像（頂上には王）がいる。

Ms. 9508, folio 14

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461行目以下の記述を解説した絵。海上に浮かぶ島に豪華な運命の宮殿がある。入口ではRichesse (富) が椅子に座り、運命の女神の兄弟のEur (幸せ) と一緒に、舟で来る者たちを出迎えている。海上には4隻の舟が見られる。

Ms. 9508, folio 17^o

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：中央には王冠を付けた運命の女神が回転しそうな状態に置かれた車輪の上に立っている。彼女は右半分が白く、左半分が黒い二つの顔で、白い手に王冠、黒い手に槍を持つ。衣装も白色と黒色で半分に分かれており、黒い方の裾は炎で燃えている。彼女の両脇には顔の白い方に彼女の兄弟のEur (幸せ) が、黒い方に棍棒を持ったMeseur (不幸せ) がいる。

Ms. 9510, folio 1

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：草原の路地において左側に目隠しされた運命の女神、右側に美德が立っている構図。運

命の女神は大きな車輪に右手を置いている。その車輪には *regno, regnavi, sum sine regno, regnabo* の带状飾りが付いている。

Ms. 9543, folio 31

Li Ars D'Amour 写本：運命の女神は不在で、4人の王（頂点の王は上半身のみで、残りの王は冠がはずれて縁にしがみつく）が配された車輪だけである。

Ms. 9548, folio 26

Li Ars D'Amour 写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、視線をレグナーボの人物に向け、両手を車輻において典型的な車輪（頂点に王）を回している。

Ms. 10220, folio 2

ボエティウス『哲学の慰め』写本：運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を車輻において、3人の人像（頂点に座る王 *regno* と縁にしがみつく2人 *regnabo, regnavi*）を配した車輪を回している。左側にはボエティウスが椅子に座り、角度付き書き物机でこの作品を書いているようである。巻物のなかに“*boece de consolation...*”の文字が読み取れる。

Ms. 10228, folio 121

ブルネット・ラティーニ *Trésor de Sciences* 写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、視線をレグナーウィの人物に向け、両手を車輻において4人の人像（頂点には王）を配した車輪を回している。車輪の回転は左回り。

Ms. 14682, folio 3

『詩篇集』写本：地面に固定された車輪には4人の人像（頂上には王杖を持つ王が座り、レグナーボの人物が左手を伸ばして彼の王杖を奪

おうとしている。レグナーウィとスム・シネ・レグノーの人物は縁にしがみついて向き合っている）が配されている。運命の女神は車輪の右側に立ち、視線を下に向けて、両手で車輪を回している。

Cambrai, Bibliothèque Municipale

Ms. B. 239, folio 5

ペトラルカ『二つの運命の療法』写本：Cという章頭装飾大形頭文字のなかの絵。ペトラルカが椅子に座って書物を読んでいる時、面前に運命の女神が出現したので、読書を中断し、右の人差し指を彼女に向けて議論しているような構図である。運命の女神は、視線を彼に向け、大きな車輪の後方に立って、両手でその車輪を回している。車輪は4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した典型的なもので、その周りに *gaudium*（喜び）、*metus*（恐怖）、*dolor*（悲嘆）、*spes*（希望）の碑銘が記されている。マザリーヌ図書館写本3882, folio 1 とは *metus* と *dolor* の碑銘の位置が逆である。

Cambridge, Newnham College Library

Ms. 900. 5, folio 38^v

クリスティーヌ・ド・ピザン『オテアの書簡』写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、レグナーボの人物に顔と視線を向けて好意を示し、両手を車輻において、4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみつく2人、最下部に接する地面に横たわる者）を配した車輪を回している。車輪の回転は左回り。

Cambridge, Trinity Hall

Ms. 12, folio 3

ボエティウス『哲学の慰め』写本：運命の女神が車輪の後方に座り、両手を車輻に置いて、

4 人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく 3 人）とそれぞれの帯状飾りを配した車輪を回している。車輪の回転は左回り。

Cambridge (Massachusetts), Harvard College, Houghton Library

Ms. Richardson 31, folio 97°

ボッカッチョ『デカメロン』写本：第4 日目の話と関連。草原において運命の女神が車輪を回している絵であるが、特徴は（車輪の上昇面には誰もいないで）身分の異なる 4 人が下降面の縁にいる点にある。

Cesena, Biblioteca Comunale Malatestiana
Ms. D. XIV. IC, folio 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：余白（margin）に描かれた絵で枠組装飾の一部。4 人の人像（頂点に座る者と縁にしがみつく 3 人）が配された車輪の手前中央に（二つの顔を持つ）運命の女神が立ち、レグノーの人物に白い方の顔と視線を向けて見上げ、様子を伺いながら、右手で車輪を回そうとしている。車輪の回転は左回り。

Chantilly, Musée Condé

Ms. 401, folio 76

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3 巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある十字路から離れた場所で、檻を纏った巡礼者ふうの女性（貧乏神）が片膝を押し当てて運命の女神を地面に押さえつけようとしている。その左側では運命の女神自身が（縄で喉元を）杭に縛られている（おそらく貧乏神によって縛られたのであろう）。双方とも手を話す身ぶりに持ち上げ、何か和解条件を確認しているような様子である。

Ms. Fr. 487, folio 1

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の口絵：2 枚の絵からなる。左側の絵において、運命の女神が上方の中央にある椅子に座り、王侯貴族が彼女の愛顧を求めて取り囲むように群がる一方で、彼女の足下から下方には司教を含む大勢が倒れている。首を斬られた者、首を吊られた者、火に炙られている者、驚に啄まれている者もいる。左隅では運命の女神の召使いが両手でクランクを握り、人がしがみつく車輪を回転させている。右側の絵は上段・中段・下段の3 層に分かれ、上段では地上の楽園においてイブが蛇に騙されて禁断の果実を手にする様子と剣を持つ天使によって追放されるアダムとイブの様子、中段では楽園を追放された二人が鳥や動物のいるなかで土地を耕し、赤ん坊に乳を与える様子、下段では椅子に座る王の面前に群がる貴族や貴婦人の姿が見られる。

Ms. 493, folio 244°

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461 行目以下の記述を解説した絵。海上に浮かぶ島に豪華な運命の宮殿がある。入口では右手に杖を持つRichesse（富）が椅子に座り、運命の女神の兄弟のEur（幸せ）と一緒に、舟で来る者たちを出迎えている。海上には3 隻の舟が見られる。

Ms. 493, folio 248°

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：中央には王冠を付けた運命の女神が回転しそうな状態に置かれた車輪の上に立っている。彼女は右半分が白く、左半分が黒い二つの顔で、白い手に王冠、黒い手に槍を持つ。衣装も白色と黒色で半分に分かれており、黒い方の裾は炎で燃えている。彼女の両脇には顔の白い方に彼女の兄弟のEur（幸せ）が、黒

い方に棍棒を持った Meseur (不幸せ) がいる。コンデ美術館写本494, folio 16とは構図が逆。

Ms. 494, folio 13

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461行目以下の記述を解説した絵。海上に浮かぶ島に豪華な運命の宮殿がある。入口ではRichesseが椅子に座り、運命の女神の兄弟のEurと一緒に、舟で来る者たちを出迎えている。海上には4隻の舟が見られる。

Ms. 494, folio 16

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：中央には王冠を付けた運命の女神が回転しそうな状態に置かれた車輪の上に立っている。彼女は左半分が白く、右半分が黒い二つの顔で、白い手に王冠、黒い手に槍を持つ。衣装も金色と黒色で半分に分かれており、黒い方の裾は炎で燃えている。彼女の両脇には顔の白い方に彼女の兄弟のEur (幸せ) が、黒い方に棍棒を持った Meseur (不幸せ) がいる。

Ms. Lat. 1561, folio 10°

オノレ・ボネ『戦いの木』写本：樹木の天辺で分かれた枝の間には(布で目隠しされた)運命の女神が大きな車輪の後方に(両手を車輻において)立っている。車輪には樹木の枝が装飾のように絡み付いているので、回転するようには思えない。枝が左右に3本ずつ伸び、それぞれの枝上で騎士たちが争っている。樹木の下には動物の口をした地獄があり、戦いで死んだ者たちがその炎のなかに悪魔たちによって入れられている。天使によって救われている者もいる。

Douai, Bibliothèque Municipale

Ms. 766, folio 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側の建物のなかではボエティウスがベットに横たわり、彼の傍らで3人のミューズが彼を慰めている。そこへ(右手に王杖を持ち、左手に数冊の書物を抱えた)哲学が登場する場面。建物の外では(布で目隠しされた)運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を車輻において、4人の人像(頂点に座る王、縁にしがみつく2人、最下部の地面に横たわる者)を配した車輪を回している。

Edinburgh, Advocates' Library

Ms. 1.1.2, folio 63

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：縁が赤色で縁の翼を持つ貴婦人(運命の女神)が4人の人像(頂点に座る王と縁にしがみつく3人)を配した車輪を右手で回している。

Erlangen, Universitätsbibliothek

Ms. 2361, folio 95°

クリスティーヌ・ド・ピザン『オテアの書簡』写本：運命の女神が左側にある玉座に腰掛け、彼女の前に置かれた車輪を右手に持った棒で驢馬を操って制御しているようである。車輪には4人の人像(頂上に座る一人としがみつく3人)がいて、Ie regne (私は君臨しています), Iay regne (私は君臨していました), Iavoye regne (私は君臨していません), Ie regnereray (私は君臨するだろう)と記された带状飾りを持っている。

Florence, Biblioteca Medicea Laurentiana

Ms. Redi 77, folio 13°

運命の女神が右手に權を持ち、左手に豊饒の角を持って立っている。

Florence, Biblioteca Nazionale Centrale
Ms. Magl. Conv. C. 3. 1266, folio 1^o

ダンテ『神曲』写本の地獄編第7歌：運命の女神は不在で車輪のみである。車輪には4人の人像（頂点に座る者、縁にしがみつく2人、最下部の地面に横たわる者）が配されている。その左側にはダンテと地獄の案内者のウェルギリウスが見られ、後者が右手を話す身振りに持ち上げて、前者に運命の実体を論じている。

Geneva, Bibliothèque publique et universitaire
Ms. Fr. 178, folio 38

『薔薇物語』写本：布で目隠しされた運命の女神が1本の車輻もない車輪の後方に立っている。車輪には4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配されているが、そのなかで、彼女はレグナーボの人物の肩に右手を置いて好意を示し、レグナーウィの人物の足を左手で掴んで彼の転落を遅らそうとしているようである。

Ms. Fr. 178, folio 47^o

『薔薇物語』写本：布で目隠しされた運命の女神が1本の車輻もない車輪の後方に立っている。車輪には4人の人像が配されている。同写本のfolio 38と違い、彼女は両手を車輪の縁に置いて回転させようとしている。

Ghent, Universiteitsbibliotheek
Ms. Gent 2, folio 43

ボエティウス『哲学の慰め』写本：右側の建物のなかではボエティウスが椅子に腰掛け、右手を胸に当て、彼の傍らで書物を手にした哲学と2人のミューズが指さす上空を見ている。その上空の左隅には（布で目隠しされ、左手に王杖を持った）運命の女神が、4人の人像（頂点

に座る王に縁にしがみつく3人）を配した車輪を携えて浮かんでいる。

Glasgow, Hunterian Museum
Ms. Hunter 208, folio 95^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：前方では檻樓を纏った老婆の貧乏神が地面に横たわる運命の女神に片膝を当てて押えつけている。後方には建物の一室でアンダルス先生が7人の門下生に講義をしている様子がある。双方の構成要素は大英図書館写本Add. 35321, folio 67に類似。

Ms. Hunter 208, folio 218^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：建物のなかの左側にボッカッチョが立っている。左手には物語を書いた巻物を持ち、彼の正面に出現した運命の女神に右の人差し指を向けている。運命の女神は白色と黒色の二つの顔を持ち、彼の方に黒い顔を向けて睨んでいる。手は2本しかない。黒い帽子を被っているため髪毛は見えない。襟、袖、裾が白く縁取られた赤い衣装を纏っている。ボッカッチョと運命の女神の構図だけは、大英図書館写本Add. 35321, folio 180に著しく類似。

Ms. Hunter 371, folio 1

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の口絵：樹木の生い茂る草原において、運命の女神が車輪を回転させて王侯や王妃たちを転落させている。車輪の近くには女神の愛顧を待ち望む者たちが大勢いる。左隅でボッカッチョが左手に物語を書いた巻物を所持し、女神の所業に右の人差し指を向けて、世の無常を論しているかのようである。

Ms. Hunter 371, folio 69^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある路上において檻縋を纏った老婆の貧乏神が地面に横たわる運命の女神に片膝を押し当て、左手で喉元を締め付けている。その左側では運命の女神が白い檻縋の衣装を纏う男性の悪運を太い柱に縛っている。

Ms. Hunter 372, folio 1

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：建物のなかの左側にボッカッチョが立っている。両手を話す身ぶりに持ち上げ、彼の前に出現した運命の女神と議論しているようである。運命の女神は、穏やかな表情で彼に視線を向けている。手は2本しかなく、左手は衣装を持ち上げている。先の尖った帽子を被っているので髪毛は見えない。緑の服の上に、襟が白く縁取られた赤色の衣装を着ている。建物の外では甲冑を付けた騎士団が行進している。

Grenoble, Bibliothèque Municipale

Ms. 608 Rés, folio 47^o

『薔薇物語』写本：細密画ではなく素描画。地面に固定された車輪の左側に（王冠を付けた）運命の女神が立ち、右手でクランクを回している。この車輪には人像が一人もいないので、紡ぎ車のような印象を与える。右側には理性と恋人（Lover）が立っている。

The Hague, Koninklijke Bibliotheek

Ms. 71 E 68, folio 292

ヴァレリウス・マクシムス *Facta et dicta memorabilia Romanorum* 写本：運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を縁において4人の人像（頂点の王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を回している。車輪の両側には王と聖職者

（哲学者）が立っているが、左側の王は右手を祈る姿勢に保ち、右側の聖職者は左の人差し指を車輪に向けて王に運命の理を説いているように見える。

Ms. 72 A 22, folio 176

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：布で目隠しされた運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を両手で回している。

Ms. 74 G 27, folio 70

クリスティーヌ・ド・ピザン『オテアの書簡』写本：運命の女神が地面に固定された車輪のクランクを左手で回転させ、右手で車輪にしがみついて昇ろうとする者を押し上げているようである。車輪には昇る者、転落する者、転落した者がいる。車輪の回転は左回り。

Ms. 78 D 40, folio 33

Feestmissall 写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、視線をスム・シネ・レグノーに向け、両手で縁を握って車輪を回している。車輪上には4匹の動物（頂点には冠を被り、王杖を持って椅子に座った動物、その他の位置には縁にしがみつく3匹の動物）がいる。

Ms. 78 D 42, folio 13

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461行目以下の記述を解説した絵。海上に浮かぶ島に豪華な運命の宮殿がある。入口では左手に杖を持つ Richesse（富）が椅子に座り、運命の女神の兄弟の Eur（幸せ）と一緒に、舟で来る者たちを出迎えている。海上には3隻の舟が見られる。

Ms. 78 D 42, folio 16°

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：中央には王冠を付けた運命の女神が回転しそうもない状態に置かれた車輪の上に立っている。彼女は左半分が白く、右半分が黒い二つの顔で、白い手に王冠、黒い手に槍を持つ。黒い方の裾は炎で燃えている。彼女の両脇には顔の白い方に彼女の兄弟の Eur（幸せ）が、黒い方に棍棒を持った Meseur（不幸せ）がいる。

The Hague, Museum Meermanno – Westreenianum

Ms. 10 A 17, folio 244

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：三つの場面から構成。右側には緑の生地と青と赤で縞模様に仕立てられた衣装を纏う運命の女神が大きな車輪に右手を置いて立っている。彼女には白と青色の二つの顔があり、彼女の左手が触れた方の柱と城壁が倒壊している。車輪の頂上にはアレクサンダー大王が腰をおろし、最下部には車輪にしがみついた人物（アレクサンダー大王？）がいる。左上には彼の祖母で女王の Euridice が椅子に座り、地面に倒れている王を前にして、彼女を取り囲む王侯らがグラスを手をしている。左下には戯れている猿と犬が見られる。

Jena, Universitätsbibliothek

Ms. M. Gallica f. 87, folio 309

ヴァレリウス・マクスィムス *Facta et dicta memorabilia Romanorum* 写本：（王冠を被り、布で目隠しされ、半分が白色で半分が黒色の顔を持った）運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を車輻において年齢の異なる4人の人像（頂点の王と縁にしがみついた3人）を配した車輪を回している。車輪の両側には王と聖職者（哲

者）が立っているが、左側の王は左手を祈る姿勢に保ち、右側の聖職者は右の人差し指を天に向けている。

Lisbon, Fundação Calousle Gulbenkian

Ms. LA 136, folio 31

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側にはボエティウスが、左肘を突いて椅子に座り、眠っているように見える。彼の傍らには右手に王杖を持った哲学が立っている。右側では二つの顔を持つ運命の女神が、梯子状の縁に4人の人像（頂点には王）を配した（地面に固定された）車輪を左手で回している。彼女の右手は握手するかのようにレグナーウィの人物に差し延べられ、好意を寄せているように見える。

London, British Library

Ms. Add. 11355, folio 79

ウェルギリウス写本：DVBIA FORTUNA（気紛れな運命の女神）の銘が刻まれた円形に見られる戦いの場面。跪いた婦人（Fortuna？）に剣を振り上げる裸体の武者のほか、騎馬兵の争い（後方）、馬から兵を引きずり降ろそうとする者、殺されて地面に横たわる者や戦利品など（左側）が見られる。

Ms. Add. 17811, folio 2

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：中央にある玉座には左手に王杖を持つ理性が腰掛け、左側に美德、右側に4人の人像を配した典型的な車輪と運命の女神が見られる構図。美德が右の人差し指を運命の女神に向けて議論している様子である。美德と運命の女神は彼女らの名が記された带状飾りを手に持っている。

Ms. Add. 31840, folio 40°

『薔薇物語』写本：冠を被った運命の女神

が、視線をレグナーボの人物に向けて、大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻に置いて車輪を回している。車輪には典型的な4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配されている。

Ms. Add. 39658, folio 1^o

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：中央にある玉座に理性が腰掛け、左側に美德、右側に運命の女神がいる構図。運命の女神は右の人差し指を美德に向けて論争しながら、頂点に王が座っている車輪のクランクを左手で回している。

Ms. Add. 42133, folio 34

『薔薇物語』写本：（冠を被り、布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻に置いて車輪を回している。車輪には典型的な4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配されている。

Ms. Add. 42133, folio 42^o

『薔薇物語』写本：（冠を被り、布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻に置いて車輪を回している。車輪には典型的な4人の人像（頂点には王）が配されている。構図は同写本の folio 34 とほぼ同じで、背景の格子縞の模様と彩りに違いがある。

Ms. Harley 621, folio 71

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：路上において檻を纏った巡礼者の女性（貧乏神）が地面に横たわる運命の女神に片膝を当てて押さえつけ、右手で彼女の喉元を締め付けている。後方には塀に囲まれたナポリの風景があり、建物の一室でアンダルス先生が3人の門下生に講義

をしている。

Ms. Harley 3577, folio 167^o

チェッコ・ダスコリ写本：布で目隠しされた運命の女神（右側）が車輪に付いたL字形のハンドルを両手で操作している。車輪には典型的な4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみつく2人、最下部の地面に横たわる者）が配されている。車輪が左回りに回転していることが特徴。

Ms. Harley 4376, folio 271

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に左手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下部には地面にある王冠と王杖をじっと見つめるアレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪悪な女王Euridiceが彼女との近親相姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. Harley 4425, folio 57

『薔薇物語』写本：テキストの5921行目以下にある運命の住処に関連した絵。海中にある不毛の岩の上に車輪が置かれ、その車軸にあたる部分に運命の女神が座っている。左側の対岸では理性が両手を話す身振りに持ち上げ、運命の実体について恋人（Lover）と論じている。

Ms. Harley 7353, second picture

これは巻物状に描かれた絵の一つ。中央には車軸に通された横棒が2本の留め杭に据えられた車輪がある。車輪には頂点に王杖と剣を持つて座っている王と縁にしがみつく5人があるが、この車輪を回転させようと、右側の騎士団と左側の修道会の一団がクランクを握ってい

る。しかし、車輪には門が差し込まれており、騎士団の前にいるFato(=Fate)という貴婦人が門を制御している。

Ms. Royal 18 D VII, folio 52

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある十字路の路傍において檻樓を纏った男性の貧乏神が運命の女神の上に乗って地面に押さえつけようとしている。その右側では貧乏神が運命の女神自身を杭に縛っている。悪運はこの画面にはいない。背景も含めて絵の構図はパリの国立図書館写本Fr.131, folio 71^{vo}とボドレー図書館写本Bodley265, folio 73^{vo}に著しく類似。

Ms. Royal 20 C VIII, folio 2^{vo}

オノレ・ボネ『戦いの木』写本：樹木の天辺で分かれた枝の間には運命の女神が車輪を両手に抱えて立っている。枝が左右に3本ずつ伸び、それぞれの枝上で騎士たちが争っている(軍旗の紋章が分かると、どのような集団かが明確になるだろう)。地上でも戦いが繰り広げられている。

London, Westminster Abbey

Ms. 22, folio 60^{vo}

Bestiarium 写本：運命の女神は大きな車輪の後方に立ち、両手でその車輻を握って回している。車輪の縁にはregnabo, regnavi, sum sine regnoの文字が刻まれ、車輪を昇る青年、転落していく嘗ての王、地面に横たわって眠る者がいる。頂点には右手に笏を持ち、左手を話す身振りに持ち上げた新たな王が座っている。

London, the Wallace Collection

Ms. M 320, frontispiece

ボエティウス『哲学の慰め』写本：部屋のな

かではボエティウスが、左肘を突き、沈鬱な面持ちで長椅子に腰を降ろしている。彼の前には右手に棒、左手に書物を持った哲学が立っている。部屋の外では(白と黒の二つの顔を持つ)運命の女神が、地面に固定されて、4人の人像を配した典型的な車輪を両手で回している。構図はパリの国立図書館写本Fr.1098, folio 20^{vo}とほぼ同じ。

Los Angeles, Paul Getty Museum

Ms. 42, leaf 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：部屋のなかではボエティウスが、右肘を突き、沈鬱な面持ちで長椅子に腰を降ろしている。彼の前には左手に棒、右手に書物を広げた哲学が立っている。部屋の外では(白と黒の二つの顔を持つ)運命の女神が、地面に固定されて、4人の人像を配した典型的な車輪を両手で回している。構図はウォレス・コレクション写本M320の口絵と左右が逆である。

Ms. 63, folio 63

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：草原の左側において(冠を付け、緑の翼を持つ)運命の女神が檻樓を纏った女性の貧乏神と組み合っている。その後方には裸体の(男性)の悪運が両手と両足を柱に縛られ、地面に座っている。右側には右脇に書物を抱えたボッカッチョが争いを見物している。

Ms. 63, folio 172^{vo}

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：部屋の左隅には書き物机に書物を広げ、椅子に座るボッカッチョがいる。彼は(冠を付け、緑の翼を持った)運命の女神が目の前に出現し、自分に視線を向けていることに驚い

て左手で祈るような姿勢を取っている。運命の女神の様相に付いて言えば、手と腕は7本（そのうちの2本は衣装を持ち上げている）、髪毛は結われ、青、赤、白、金色からなる衣装を纏っている（金色は青い生地に横縞模様）。

Ms. Ludwig XV 7, folio 38^o

『薔薇物語』写本：草原において（王冠を被り、布で目隠しされ、翼を持つ）運命の女神が地面に固定された典型的な車輪（頂点に座る王と縁にしがみついた3人）のクランクを両手で回している。その後方にはヘラクレイトス（紀元前5世紀頃のギリシャの哲学者）とディオゲネス（紀元前4世紀のギリシャの哲人）が腰を降ろして議論している。テキストの5869行目以下の記述に関連。

Ms. Ludwig XV 7, folio 39

『薔薇物語』写本：荒れ狂う海中にある不毛の島において（王冠を被り、布で目隠しされ、翼を持つ）運命の女神が地面に固定された典型的な車輪のクランクを両手で回している。テキストの5921行目以下にある運命の館の記述に関連。

Mâcon, Bibliothèque Municipale

Ms. 95, folio 3^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側には尼僧のような衣装を纏った貴婦人（運命の女神それとも哲学？）が両手を胸の辺りまで持ち上げて立っている。右側には地面に固定された（クランク付き）車輪がある。この車輪には4人の人像（頂点に座る王と縁にぴったりとしがみついた3人）が配されている。

Montpellier, Bibliothèque Interuniversitaire

Ms. 265, folio 1

ペトラルカ『二つの運命の療法』写本：左側にある椅子に運命の女神が腰掛け、前に据えられた車輪のクランクを右手で回している。車輪には昇る者、頂点に座る王、転落する者、最下部の地面に横たわる者がいる。それぞれには *regnabo, regno, regnavi, sum sine regno* の帯状飾りが付いている。

Munich, Bayerische Staatsbibliothek

Ms. clm. 4660, folio 1

『カルミナ・ブラーナ』写本：4人の人像を配した典型的な車輪（但し、レグナーボの人物がレグノーにいる王の足を掴んで昇ろうとしている）があり、その車輪の中央に運命の女神が両手に帯状飾りを持って座っている。

Ms. clm. 17404, folio 203^o

上下段の二つの場面からなる。上段では城を攻撃する騎士たちと守る騎士たちが争っている場面。下段では運命の女神が車輻のない車輪の中央に座っている。車輪上には3人の人物がいて、レグナーボの人物は運命の女神によって兜を与えられ、レグナーウィの人物は彼女によって王冠を奪われ、剣で胸を刺して自害している。車輪の回りに2重の輪があり、左側に糸巻き棒を持って生命の糸を紡ぐクロトー、頂上に人間の運命の糸の長さを決めるラケシス、右側に運命の糸を切るアトロポスがいる。

Ms. gallicus 6 (= gall. 369), folio 4

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の口絵：建物のなかでは、様々な身分の人物に囲まれて中央の椅子に座っている王に、写本を献呈する著者（ボッカッチョ）の姿が見られる。フランス語写本なので、ことによると献呈者はプルミエフェかもしれない。建物の外では、冠を被り、長い髪毛の運命の女神が、地面に固定

され、4人の人像を配した典型的な車輪のクランクを両手で回転させている。

Ms. gallicus 11, folio 13

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461行目以下の記述を解説した絵。波立つ海上のなかに高く聳えたつ岩山。その頂上に四角い運命の宮殿があり、それを左右からの4本の鎖が支えている。入口ではRichesse（富）が椅子に座り、運命の女神の兄弟のEur（幸せ）と一緒に来客を待っている。運命の女神も来客を歓迎しようと右側の入口に立っている。海上には3艘の舟。

New Haven (Connecticut), Yale University,
Beinecke Rare Book and Manuscript
Library

Ms. 215 vol.2, folio 1

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：上下二つに仕切られている。上段においては右隅に上半身像の主なる神，中央に4人の乙女に囲まれた王妃が見られる。下段の中央には運命の女神が、両手を車輪に置いて、その後方に立っている。彼女を挟んで双生児を連れたポシドニウス（左側）と占星家ニギディウス（右側）とが論争している。

New York, The Pierpont Morgan Library

Ms. G 35, folio 79^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある道では二つの顔を持つ運命の女神が檻を纏った男性（貧乏神）と出会い、今にも争おうとする様子，左下では貧乏神が運命の女神の上に乗って地面に押さえつけ，左手で彼女の喉元を締め付けている様子，そしてその上方にある小高い丘では運命の女神自身が（腰に布を巻

ただけの）男性の悪運を杭に縛っている様子がある。

Ms. G 35, folio 205

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：左下にある部屋のなかには，椅子に座り，右手にペンを持って角度付き書き物机で物語を書いているボッカッチョがいる。建物の外にいる運命の女神は白色と黒色の二つの顔を持ち，彼の方に白い顔を向けている。手は2本しかなく，右手には王杖を握り，左手で4人の人像を配した典型的な車輪のクランクを回している。先の尖った帽子を被っているので髪毛は見えない。白，赤，金色からなる衣装を纏っている。背景には絞首刑に処せられた人たち，甲冑を付けた騎士たちが争う様子などが見られる。

Ms. M 343, folio 35

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：右上の小高い丘の中腹に，椅子に座り，右手にペンを持って角度付き書き物机で物語を書いているボッカッチョがいる。上空には青い空に同化した上半身像だけの運命の女神が出現している。6本の手と腕を持ち，髪毛は長く肩まで垂れている。上空の中央には主なる神が見られ，運命の女神に比べると鮮明に描かれている。地上では甲冑を付けた4人の騎士たちが槍を手にして馬上で争う様子，剣を手にした者たちが王侯を殺害する様子，火炙りの刑・釜ゆでの刑・絞首刑の様子，動物の口をした地獄の炎に人間たちが悪魔によって投げこまれる様子などが見られ，背景に力点がおかれている。

Ms. M 396, folio 239^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：館の中央には主なる神が天使たちに囲まれて座っている。哲学はボエティウスを神に引き合わせよう

と、彼の手を取って館に招いている。この館のなかに運命の女神の姿も見られるが、彼女の車輪は粉々に壊れて回転できない状態にある。

New York, Public Library

Ms. Spencer 17, folio 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：地面から高い位置に固定された（歯車のような）車輪の後方に（白と黒の二つの顔を持った）運命の女神が見られ、両手を車輻において車輪を回している。車輪には4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみつく2人、地面に転落する人物）が配され、それぞれには *regno*, *regnabo*, *regnavi*, *sum sine regno* の帯状飾りが付いている。車輪の右上空には上半身像の主なる神が見られ、右人差し指をレグノー（王）に向けている。また車輪の両側には2つのグループが見られ、何やら議論している。

Oxford, Bodleian Library

Ms. Bodley 188, folio 120^v

Hugo de Folieto, *De rota verae et falsae religionis* 写本：運命の車輪の典型的な構図にしたがって修道会に適用されたもの。車輪の縁にはベルギーの王立図書館写本 II.1076, folio 82 のような明記はないが、車輪上の *regno* は大修道院長, *regnabo* は修道院次長, *regnavi* は副修道院長, *sum sine regno* は門弟であろう。ここには運命の女神は見られない。

Ms. Douce 298, folio 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側ではベッドに横たわるボエティウスを2人のミューズが慰めている。右側では（冠を付け、右手に王杖を持った）哲学が椅子に座り、左手を話す身振りに持ち上げて、彼女の前にいる（二つの顔を持った）運命の女神と何か議論している。

Paris, Bibliothèque de l'Arsenal

Ms. Rés. 5202, folio 41

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：草原において中央に理性が座り、右側に（薄赤い生地にも金と青色で縞模様に仕立てられた衣装を纏う）運命の女神、左側に美德が立っている構図。運命の女神は右手に王杖を持ち、左手を話す身振りに持ち上げて美德と論争している。女神の後方では彼女の召使いが車輪を回している。

Paris, Bibliothèque de l'Institut de France

Ms. 264, folio 9

ボエティウス『哲学の慰め』写本：（冠を付け、布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻において、4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみつく2人、最下部の地面に横たわる者）が配された車輪を回している。

Paris, Bibliothèque Mazarine

Ms. 3469, folio 38

アリストテレス『自然科学』写本：D という章頭装飾大形頭文字のなかの絵。4人の王（頂点の王は椅子に座り、残りの王は冠がはずれ、縁にしがみつく）が配された車輪と両手を車輻において轂に立つ運命の女神が見られる。

Ms. 3882, folio 1

ペトラルカ『二つの運命の療法』写本：ペトラルカが椅子に座って書物を読んでいる時、面前に運命の女神が出現したので、読書を中断し、両手を話す身振りに持ち上げて彼女と議論しているような構図である。運命の女神は、視線を彼に向け、大きな車輪の後方に立って、両手でその車輪を回している。車輪は4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配し

た典型的なもので、その周りに gaudium（喜び）、dolor（悲嘆）、metus（恐怖）、spes（希望）の碑銘が記されている。

Paris, Bibliothèque Nationale

Ms. Fr. 23, folio 150^o

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：王冠を付け、真っ赤な翼を持つ運命の女神が4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪の後方に立ち、上方に視線を向けて、車輪を回している。構図はアミアンの市立図書館 Ms. 216, folio 185 とほぼ同じ。

Ms. Fr. 25, folio 161

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：上空の右側には主なる神（上半身像）、左側には上半身像だけの運命の女神がいて、地上での出来事を見ている。その地上では運命の女神のいる左側の方に顔を向け、傾いた様子に座る王がいる。王を挟んで二人の哲学者らしい人物が論争している。

Ms. Fr. 27, folio 154

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：宮殿の建物内において（冠を付け、左手に王杖を持った）運命の女神が、地面に固定され、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪のクランクを右手で回している。宮殿の外には数人の王侯が群がり、彼女の愛顧を待っているようである。上空には両手に王冠を持った（上半身像の）主なる神が見られる。

Ms. Fr. 131, folio 71^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある十字路の路傍において、檻樓を纏った男

性の貧乏神が運命の女神の上に乗って地面に押さえつけようとしている。その右側では貧乏神が運命の女神自身を杭に縛っている。背景も含めて大英図書館写本 Royal 18 D VII, folio 52 とボドレー図書館写本 Bodley 265, folio 73^o の構図に著しく類似。

Ms. Fr. 132, folio 42^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：道端にある小屋の前では黒い頭巾を被った女性の貧乏神と運命の女神の出会いと口論の場面（右側）。貧乏神は腰を降ろして両手を祈るような姿勢に保ち、運命の女神は右の人差し指を相手に向けている。手前では双方が組み合っている。左側では貧乏神が木の幹に運命の女神自身の両手を紐で縛っている。

Ms. Fr. 143, folio 6^o

『愛のチェス』写本：（冠を被り、左手に王杖を持ち、白い衣装を纏った）運命の女神が椅子に腰掛け、地面に固定された車輪のクランクを右手で回している。人像が一人もいないこの車輪は紡ぎ車のような印象を与える。

Ms. Fr. 172, folio 150

アウグスティヌス『神の国』写本の第5巻：布で目隠しされた運命の女神（左側）が、地面に固定されて、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪のクランクを右手で回している。

Ms. Fr. 329, folio 277

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に左手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下

部には地面にある王冠と王杖をじっと見つめるアレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪魔な女王Euridiceが彼女との近親相姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. Fr. 380, folio 46^o

『薔薇物語』写本：「ジュピターの館の入口に2つの酒樽があり、運命の女神は居酒屋の女将としてアブサン（苦みのある緑色の強い酒）と甘いワインをすべての人に出している」（6813行目以下）という件を説明した絵。布で目隠しされた運命の女神は酒の入ったグラスを両手に持って2つの酒樽の前に立っている。そのグラスを左右にいる人々が受け取ろうとしている。

Ms. Fr. 603, folio 91

クリスティーヌ・ド・ピザン『運命の変転の書』写本：テキストの1461行目以下の記述を解説した絵。左右にある4本の鎖によって支えられて海上に浮かんでいるように見える広い緑の地面があり、その上に四角い運命の宮殿が存在する。Richesse（富）が入口に立ち、運命の女神の兄弟Eur（幸せ）と一緒に小舟で来た3人を館に迎え入れている。

Ms. Fr. 606, folio 35

クリスティーヌ・ド・ピザン『オテアの書簡』写本：布で目隠しされた運命の女神が、鉄棒の横棒に車軸を通されたような、車輪を両手で回している。車輪上には頂点にいる王を含めて身分の異なる6人（うち3人は縁にしがみついている）がいる。

Ms. Fr. 1098, folio 20^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：部屋のな

かではボエティウスが、左肘を突き、沈鬱な面持ちで長椅子に腰を降ろしている。彼の前には右手に棒、左手に書物を持った哲学が立っている。部屋の外では（白と黒の二つの顔を持ち、お下げ髪の）運命の女神が、地面に固定されて、4人の人像を配した典型的な車輪のクランクを右手で回している。

Ms. Fr. 1100, folio 23^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：草原において運命の女神が4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪のクランクを右手で回している。手前では哲学が右の人差し指を運命の女神と車輪の方に、顔をボエティウスに向けて運命の実体を説いている。

Ms. Fr. 1266, folio 5

オノレ・ボネ『戦いの木』写本：樹木の天辺で分かれた枝の間には運命の女神が車輪を両手に抱えて立っている。枝が左右に4本ずつ伸び、それぞれの枝上で騎士たちが争っている（軍旗の紋章が分かると、どのような集団かが明確になるだろう）。

Ms. Fr. 1565, folio 34

『薔薇物語』写本：布で目隠しされた運命の女神が4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻において、車輪を回している。同写本のfolio 42^oとは運命の女神と車輪の構図が違う。

Ms. Fr. 1586, folio 32^o

ギョーム・ド・マシヨール『運命の療法』写本：左側に布で目隠しされた運命の女神が立っている。右側には恋人（Lover）が地面に座り、左の人差し指を運命の女神に向けて嘆いて

いる様子が見られる。

Ms. Fr. 1949, folio 38^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：平原の右側では（帽子を被り、白と黒の二つの顔を持つ）運命の女神が、地面に固定されて、4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみついた2人、最下部に横たわる者）を配した車輪のクランクを右手で回している。左側では椅子に腰かけたボエティウスに、哲学が左の人差し指を車輪の方に向けて、運命の実体を説いている。

Ms. Fr. 2186, folio 2^o

『梨物語』写本：（王冠を被った）運命の女神が車輪の後方に立ち、両手を車輻において車輪を回している。車輪には4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみついた3人）が配されているが、王がレグナーボの人物の左手を握って引き上げようとする構図は注目に値する（双方が纏ったガウンの紋章の関係が分かると、この意味が明確になるだろう）。

Ms. Fr. 6272, folio 203

アウグスティヌス『神の国』写本：上下二つに仕切られている。上段において左側では運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻に置いて、4人の人像（頂点に座る王、縁にしがみついた2人、最下部の地面に横たわる者）を配した車輪を回している。中央には双生児を連れたボシドニウス、右側では占星家のニギディウスが回転する陶工の轆轤を用いて双生児の問題（偶然性）を証明している。下段においては主なる神と4人の乙女を連れた王妃が見られる。

Ms. Fr. 6445, folio 268^o

ウェアリウス・マクシムス写本：（冠を付け

た）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻において車輪を回している。車輪上には昇る者（レグナーボ）、剣と王杖を持つ王（レグノー）、転落する者（レグナーウィ）がいる。スム・シネ・レグノーの人物は車輪の最下部の地面に横たわっている。車輪の回転は左回り。

Ms. Fr. 12559, folio 118^o

サルッツォ侯爵トマ『遍歴の騎士』写本：宮殿の最上階では赤い翼を持つ運命の女神が、冠を被り、笏を手にし、3頭のライオンに守られて権威を示している。宮殿の真ん中には最上階に通じる階段があり、その両側には教皇や王侯が腰をおろしている。城壁の内外には女神の愛顧を待つ大勢の者が群がるが、城外にいる者たちは門が閉ざされているために城内にさえ入れないでいる。宮殿の両側には転落している者たち、地上には剣や斧で殺害されている者たちがいる。

Ms. Fr. 12595, folio 52

『薔薇物語』写本：「ジュピターの館の入口には2つの酒樽があり、運命の女神はアブサン（苦みのある緑色の強い酒）と甘いワインをすべての人に出す居酒屋の女将」という設定である。布で目隠しされた運命の女神が右手に酒瓶を持って館の入口に立っている。館の外では理性が恋人（*Lover*）に運命の女神の実体を論じている。

Ms. Fr. 15459, folio 1

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に左手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下部には地面にある王冠と王杖をじっと見つめる

アレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪悪な女王Euridiceが彼女との近親相姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. Fr. 19137, folio 1

ボエティウス『哲学の慰め』写本：右側の建物のなかでは、ボエティウスが椅子に座り、右肘を突いて、膝に広げた書物を読んでいる。建物の外では（帽子を被った）巨大な運命の女神が、地面に固定され、4人の人像（頂点には王）が配された車輪を右手で回している。

Ms. Fr. 20124, folio 259

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に右手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下部には地面にある王冠と王杖を背にして嘆くアレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪悪な女王Euridiceが彼女との近親相姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. Fr. 20125, folio 233^o

Histoire Universelle 写本：（冠を付けた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を両手で回している。

Ms. Fr. 20130, folio 80

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に左手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下部には右手で祈るような姿勢を取る（王冠を付けた）アレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪悪な女王Euridiceが彼女との近親相

姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. Fr. 24307, folio 35^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：（左手に王杖を持ち、右手を話す身振りに持ち上げた）哲学が、両手を祈るような姿勢を取ってベッドに横たわるボエティウスの傍らに立ち、彼の嘆きの原因を説いている。左側には二つの顔を持った運命の女神が彼に黒い方を向け、右手で車輪を回している。

Ms. Fr. 24388, folio 36

『薔薇物語』写本：（布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輪において、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪を回している。

Ms. Fr. 24388, folio 44^o

『薔薇物語』写本：（布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輪において、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪を回している。構図は同写本のfolio 36とほぼ同じで、背景の格子縞の模様と彩りに違いがある。

Ms. Fr. 24392, folio 39^o

『薔薇物語』写本：（帽子を被り、左手に王杖を持った）運命の女神が地面に固定された車輪の右側に立ち、右手でクランクを持って車輪を回している。車輪には4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）がいる。

Ms. Fr. 24392, folio 49^o

『薔薇物語』写本：背景は異なるが、構図的にはfolio 39^oとほぼ同じ。相違は運命の女神が

布で目隠しされている点と車輪上のレグナーウィの人物が見えない点である。

Ms. Lat. 6643, folio 76

ボエティウス『哲学の慰め』写本：中央には（顔も手も衣装も右半分が黒色、左半分が白色に二等分された）運命の女神が轆轤台状に置かれた車輪の上に立っている。彼女の白い顔の方には豊富な宝物目当ての豪華な衣装を纏った貴族と貴婦人、黒い方には檻樓を纏った農夫と子供がいる。右隅では綻びた衣装を纏う哲学とボエティウスが両手を話す身振りに持ち上げ、運命の実体を議論している。

Ms. Lat. 6643, folio 227

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側には（顔も手も衣装も右半分が黒色、左半分が白色に二等分された）運命の女神が立っている。後方には彼女の愛顧を願う一団がいる。右側には綻びた衣装を纏う哲学と右手を祈る姿勢に上げたボエティウスが立っている。

Ms. Lat. 17165, folio 1

ペトラルカ『二つの運命の療法』写本：（冠を付け、布で目隠しされた）運命の女神が4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪の後方に立ち、レグナーウィの方に顔を向けて、両手で車輪をまわしている。車輪上の人像はそれぞれ、頂点から右回りに、gaudium（喜び）、metus（恐怖）、dolor（悲嘆）、spes（希望）の带状飾りを持っている。

Ms. Réserve 488, folio 39°

ボエティウス『哲学の慰め』写本：両足を鎖で繋がれてベッドに横たわるボエティウス（中央）は、彼の汗を拭う哲学（左側）の支援を受けながら、（二つの顔を持った）運命の女神

（右側）に顔を向けて何か議論しているようである。この時、彼女は白い方の顔を彼に向けている。

Ms. Rothschild 2973, folio 1

Jean de Montchenu, *Chansonnier* 写本：白と黒の二つの顔を持ち、右半分と左半分で色が異なる衣装を纏い、白い顔の方の手には鏡、黒い方の手には剣を持ち、半部分が黄金で半部分が黒の翼を付けた運命の女神が空中に浮かぶ車輪の上に立っている。彼女の上方には矢を放っているキューピッドがいる。右側には彼が放った矢で胸を射抜かれた貴婦人の姿がある。

Paris, Bibliothèque Saint-Geneviève

Ms. 1128, folio 196

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：建物の左側には右手にペンを持って書き物机に向かい、第6巻を書き始めようとしているボッカッチョがいる。運命の女神は彼の正面に立ち、穏やかな表情で彼に視線を向けている。腕は2本であるが、10本の手が衣装全体に見られる珍しい構図である。髪の毛は長く胸の辺りまで垂れ、小豆色の生地には緑と白の縞模様からなる衣装を纏っている。

Ms. 1132, folio 2

ボエティウス『哲学の慰め』写本：（冠を付けた）運命の女神が胸の辺りに（人像が一人もいない）車輪を抱えて立っている。左側では哲学が運命の女神に右の人差し指を向けてボエティウスに彼女の実体を説いている。

Philadelphia, Rosenbach Museum and Library

Ms. 439/16, folio 146°

リドゲイト『王侯の没落』写本の第6巻：部

屋の左側には椅子に座り、広げられた書物のある書き物机に肘を突いて思いに耽っているボッカッチョがいる。彼の正面に運命の女神が出現し、彼に視線を向けている。腕は2本しかないが、数多くの手が見られる(珍しい構図)。髪の毛は長く腰の辺りまで垂れている。身体が右半分と左半分に分かれており、右半分は緑色で花模様がある(夏のイメージ)。衣装を纏っているようには見えない。

Princeton, University Library

Garrett Medieval Ms. 126, folio 36

『薔薇物語』写本：(布で目隠しされた)運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輪において4人の人像(頂点に座る王と縁にしがみつく3人)を配した車輪を回している。

Rouen, Bibliothèque Municipale

Ms. 0.4., folio 74

『道徳化されたオウィディウス』写本：運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輪において車輪を回している。車輪は4人の人像(頂点に座る王と縁にしがみつく3人)を配した典型的なものである。

Ms. 1440 (U.25), folio 67

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：草原において檻を纏った貧乏神が地面に横たわる運命の女神の腹部に右足を置く構図。女神の近くには地面に固定された(クランク付きの)大きな車輪がある。細密画に多少の損傷が見られ、運命の女神と貧乏神の顔の様子が不鮮明。

Ms. 3045 (= Leber817), folio 22^o

ボエティウス『哲学の慰め』写本：運命の女神は不在で、地面に固定されて、6人の人像

(頂点に座る王と縁にしがみつく5人)が配された車輪だけがある。左側では哲学が左手を車輪の方に向け、ボエティウスに運命の法則を説いているようである。

San Marino (California), Huntington Library
Ms. HM 268, folio 43^o

リドゲイト『王侯の没落』写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：十字架像のある十字路の路傍において薄紫の衣装を纏う女性(貧乏神)が地面に横たわる運命の女神(目隠しされ、翼を持つ貴婦人)に片膝を当てて押さえつけ、左手で彼女の喉元を締め付けている。その左斜め上には黒い衣装を纏う男性の悪運(Euel Auenture)が両手を杭に縛られている。右側に争いを見物する二人の姿がある。これは大英図書館写本 Royal 20 C IV, folio 77^oの構図に類似。

Ms. HM 936, folio 142

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：部屋の左側に両手を祈るように合わせてボッカッチョが立っている。翼を持つ運命の女神が彼の正面に出現しているが、床に座っているようである。彼女の表情は穏やかであり、2本の両手で車輪を抱えている。金髪の毛は長く肩の辺りまで垂れ、頭に王冠を付けている。襟と袖が白く縁取られた青色の衣装を纏っている。

Ms. HM 937, folio 1

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の口絵：5つの場面で構成。左上には主なる神によってアダムの肋骨からイブが創造される様子と天使によって地上の楽園からアダムとイブが追放される様子、左下には冠を被った運命の女神が4人の人像を配した典型的な車輪を両手で

回す様子、右下には甲冑をつけた騎士たちが争う様子がある。右上の建物のなかでは、椅子に座るパトロンに写本を献呈する著者の姿がある。フランス語写本なので、ことによると献呈者はプルミエフェかもしれない。

Stuttgart , Württembergische Landes –
bibliothek

Ms. Donaueschingen 37, folio 96°

アラヌス・ド・リール『アンティクラウディアヌス』写本：運命の女神は不在で，regno, regnavi, sum sine regno, regnaboが縁に銘記された車輪だけの絵。

Ms. Donaueschingen 123, folio 58

（布で目隠しされた）運命の女神が、道端に固定されて、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）が配された車輪のクランクを右手で回している。車輪の土台の下にはドクロがある。車輪の回転は左回り。最大の特徴は、(1)運命の女神の頭の上に時計が置かれている、(2)彼女が轡をくわえ、上空の雲に座っている主なる神によって制御されている点にある。

Utrecht, Bibliotheek der Rijksuniversiteit

Ms. 1335, folio 14^{bisv}

ボエティウス『哲学の慰め』写本：2つの場面から構成。上段では（布で目隠しされた）運命の女神が大きな車輪の後方に立ち、両手を車輻において、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を回している。下段では病床に伏したボエティウスが3人の詩人たちに囲まれ、枕元には左手に王杖、右手に書物を抱えた哲学がいる。

Valencia, Biblioteca de la Universidad

Ms. 387, folio 42°

『薔薇物語』写本：テキストの5921行目以下の運命の館のある島の描写。左半分が立派な宮殿で、右半分が少し傾いた汚い掘っ建て小屋からなる運命の館がある。そのなかで目隠しされた運命の女神が翼の付いた携帯用の車輪を手に持ち、3つの異なる姿勢を取っている（宮殿内では直立し、汚い小屋の中央では躓き、汚い小屋では座った姿勢）。宮殿のある左側には樹木が生い茂り、汚い小屋のある右側には木々が不毛の岩にまばらにしか生えておらず荒涼とした背景である。館の周りに二つの川があり、左側の澄んだ水では幸運を手にした者たちが心地よく泳ぎ、右側の黒ずんだ水では不運な者たちがのたうっている。川の中央付近では、黒ずんだ流れに頭が触れて後戻りしようとする者や全力を尽くして澄んだ水に入ろうとする者がいる。絵の前面の左側には翼のある馬に跨るキューピッド、右側には鋭い剣を手にした人物がいる。

Vatican City , Biblioteca Apostolica
Vaticana

Ms. Vat. Lat. 4776, folio 22

ダンテ『神曲』写本の地獄編第7歌：運命の女神が車輪の後方に立って、両手で車輻を握って回している。右手に笏を持つ王が車輪の頂点に座り、他の3人は縁にしがみついている。この車輪の特徴は回転が左回りという点にある。

Venice, Biblioteca Nazionale Marciana

Ms. Fr. Append 44 (=10138), folio 1

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の口絵：Pという章頭装飾大形頭文字のなかに描かれた細密画。地上の楽園を追放された裸体のアダムとイブが（右手で押さえた）葉っぱで陰部を隠している。彼らの前面に運命の女神の姿があり、レグノーとスム・シネ・レグノーの位

置に人像が配された車輪を右手で回している。

**Vienna, Österreichische Nationalbibliothek
Ms. 122, folio 18^o**

セネカ『激怒したヘラクレス』写本：これは「おお！勇敢な者を妬む運命の女神よ、汝は贈り物を施す場合、何と善良な者には不誠実なのか」を説明した絵である。右上には（布で目隠しされ、冠を被り、翼を持ち、両手に球を抱えた）運命の女神が椅子に腰掛けている。左側では6人が祈っている。背景はため池のある不毛の山と雲の浮かぶ空。

Ms. 2543, folio 280

Jean de Courcy, *La Bouquechardière* 写本：二つの場面から構成。左側には運命の女神が大きな車輪に左手を置いて立っている。車輪の頂上には椅子に座ったアレクサンダー大王、最下部には地面にある王冠と王杖をじっと見つめるアレクサンダー大王がいる。右側には彼の祖母で邪悪な女王Euridiceが彼女との近親相姦を拒む二人の息子と娘婿を毒殺している場面がある。

Ms. 2544, folio 224^o

ウェアリウス・マクシムス写本：布で目隠しされた運命の女神が4人の人像（車輪の頂上にいる王と縁にしがみついた3人）を配した典型的な車輪のクランクを右手で回している。

Ms. 2559, folio 133

ペトラルカ『二つの運命の療法』写本：同写本のfolio 5^oが幸運の状況であるのに対し、ここは不運の状況が描かれている。白い顔と黒い顔を持つ運命の女神は黒い方を車輪の頂上にいた王に向けて、左手で車輪のクランクを回している。そのために王は車輪から引きずり降ろさ

れ、贈り物を奪われている。右側の天蓋付きの玉座には新たな王と彼に取り入る輩がいる。運命の女神の下には「私は運命の女神で、残酷な支配者です。私が醜い顔を向ける者に対して、ある者は贈り物を奪い去り、他の者はその者を見捨てます。すべての人は彼を嘲り、彼を追放します」という碑銘がある。

Ms. 2591, folio 37

神聖ローマ帝国皇帝チャールズ5世が中央の玉座にいる。彼の足元に6つの紋章の付いた車輪があり、堅忍と（左手に轡を持った）節制の美德がその回転を止めているようである。前方には布で目隠しされた運命の女神が両手を紐できつく縛られて立っている。彼女の両脇には（右手に剣と天秤を持った）正義と（右手に鏡を持った）賢明の美德がいて、運命の女神が逃げないようにしている。

Ms. 2591, folio 58

城内の二つの場面から構成。右側には身分の異なる4人の人像が配された車輪がある。その両側に左手に船を持った貴婦人とチャールズと思われる若者がいて、車輪を回転させている。左側には王の前に跪いて両手を合わせる数人がいる。

Ms. 2595, folio 20

ボエティウス『哲学の慰め』写本：左側には椅子に座ったボエティウスと彼の前にいる（冠を付けた）哲学が両手を話す身振りに持ち上げて対話している。その右隣りには（冠を付け、白色と黒色の手と二つの顔を持つ）運命の女神が（布で目隠しされ、鎖で繋がれた）人物—運命の虜になった人物—を連れている。

Ms. 2621, folio 27^o

ボードワン・ド・コンデ『愛の牢獄』写本：
運命の女神が両手で（人像が一人もない）車輪を胸の辺りに持ち上げて立っている。

Ms. 2621, folio 42^o

ボードワン・ド・コンデ『愛の牢獄』写本：
運命の女神が（人像が一人もない）車輪を胸の辺りに持ち上げて、2本の樹木の間立っている。

Ms. S.n. 12766, folio 72^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：草原の左側において翼を持つ運命の女神と檻を纏った女性の貧乏神が組み合っている。その右斜め後ろに裸体で顎髭のある男性の悪運が両手を杭に縛られて地面に座っている。アルスナル図書館写本5193, folio 88の構図と類似。

**Washington D.C., Library of Congress
Rosenwald Coll. No. 427, folio 63**

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語版で第3巻の運命の女神と貧乏神の争い：二人の友を連れて散歩する貴婦人（運命の女神）が路傍に座っている檻を纏った女性（貧乏神）に出会い、貧乏神が運命の女神を見上げて左の人差し指を向け、運命の女神が両手を話す身振りに持ち上げ、双方が言い争っているような構図である。

Rosenwald Coll. No. 427, folio 176^o

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語版の第6巻：部屋の左側には角度付き本立てと写本が置かれた机を前にしてボッカッチョが椅子に座っている。左手には物語が書かれた写本が広げられ、彼の正面に出現した運命の女神に右の人差し指を向けている。運命の女神は横睨みで彼

に視線を向けている。彼女は9本の手と腕を持ち（2本は肘の部分から分岐）、そのうちの2本は彼から奪ったペンとナイフを握っている。髪毛は長く乱れて腰の辺りまで垂れている。青、赤、金色からなる衣装を纏っているが、色褪せてみすぼらしく見える。

Rosenwald Coll. No. 535, folio 43

ボエティウス『哲学の慰め』：右側の建物のなかではボエティウスが椅子に腰掛け、右手で祈るような姿勢を取り、上の方を見ている。彼の傍らには書物を左手に広げて彼に何かを論している哲学と2人のミューズが立っている。左隅の上空には（布で目隠しされ、左手に王杖を持った）運命の女神が、4人の人像（頂点に座る王と縁にしがみつく3人）を配した車輪を携えて浮かんでいる。

Wolfenbüttel, Herzog August Bibliothek

Ms. Guelf. A. 3. Aug. 2^o, folio 208

ボッカッチョ『名士列伝』フランス語写本の第6巻：ボッカッチョがロジアの左側にある椅子に座り、両手を話す身振りに持ち上げて、彼の前に出現した運命の女神と議論しているようである。彼女は盲目ではない。右半分が白色、左半分が黒色の顔であるが、2本の手はどちらも白い。髪毛は長く足元辺りまで垂れ、豪華な帽子を被っている。衣装は襟、袖、裾が茶色で縁取られた青い生地である。右側には大きな車輪があり、梯子状の車輪縁を昇る者、頂点に座る者、転落する者、床の敷石に横たわり血を流す者がいる。

Ms. Guelf. 1.15.1 Aug. 2^o, folio 1

マルタン・ル・フラン『美德と運命の争い』写本：左上の隅にある椅子には理性が座り、右手に剣を持ち、上空の中央に描かれた（上半身

像の) 神に左の人差し指を向けている。絵の前面においては、左側の美德が両手を話す身振りに持ち上げて右側にいる運命の女神と論争している。女神は議論しながらも、地面に固定された(4人の人像が配された)典型的な車輪のクランクを左手で回している。

注1 A. de Laborde, *Les Manuscrit à peintures de la Cité de Dieu de Saint Augustin* I – III (Paris,1909). See Index general in vol.II

(1998年9月24日受理)